

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	ぜんどうせん 禅僧線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	海陽町(旧海南町)																	
事業概要	【目的】 ・本路線は、海部郡海陽町神野の国道193号から分岐した林道「荒谷線」と「神野岡本線」の接続部分を起点として、海陽町大比の「林道大木屋小石川線」へ連絡する森林基幹林道である。 ・当区域は、海部川上流の急峻な地形に広大な森林を有し、また、禅僧スギとして有名なスギの古木が密集し非常に資源の豊富な区域であるとともに、海部川下流域に位置する集落等の重要な水源区域でもある。このことから当区域の広大な森林資源の合理的な林業経営に資するための重要な基盤とし整備することにより、森林整備の促進による森林の持つ公益的機能の維持・増進と、中山間地域の雇用増進を図ることを目的とする。 ・災害時における県道及び町道の不通時には、大比、平井集落と神野集落を結ぶ迂回路としての役割も期待されるなど、地域にとって欠くことのできない非常に重要な路線である。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">1,052ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:838ha (80%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>93戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>12,000m</td> <td>(うち令和5年度末の供用予定延長 3,602m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,240,000千円</td> <td>(うち令和5年度末の実施予定事業費 1,321,000千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成16年度～</td> <td>令和20年度 (35年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,052ha	[人工林面積:838ha (80%)]	受益戸数(森林所有者数)	93戸		幅員	3.5～4.0		計画延長	12,000m	(うち令和5年度末の供用予定延長 3,602m)	総事業費	3,240,000千円	(うち令和5年度末の実施予定事業費 1,321,000千円)	事業予定期間	平成16年度～
利用区域面積	1,052ha	[人工林面積:838ha (80%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	93戸																			
幅員	3.5～4.0																			
計画延長	12,000m	(うち令和5年度末の供用予定延長 3,602m)																		
総事業費	3,240,000千円	(うち令和5年度末の実施予定事業費 1,321,000千円)																		
事業予定期間	平成16年度～	令和20年度 (35年間)																		
評価	【事業の進捗状況】 平成16年度に着工し、起点側1,144m、終点側2,197mが共用を開始している。当区域は、起伏の激しい地形条件と大比地区集落の集水区域で重要な水源地であるため濁り防止対策により事業費が増となった。平成26年度よりは起点側からの開設工事に着手している。また、当林道と接続する、林業専用道「木戸ヶ谷支線」の開設工事が進んでおり、接続地を起点とした新たな開設口を設けることにより事業進捗の推進が図られる。 <div style="text-align: right;">[進捗率:30%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当該路線区域では、平成17年度から森林整備の実施に取り組んでおり、今後も森林の多面的機能維持を含めた森林整備が実施される予定である。																			
評価項目	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の4分の3を森林が占め、人口林率も60%と高い。森林資源量はこの40年間で約3倍にまで増加し、その大部分が利用可能な状態まで生長している。県では、利用期を迎えた豊富な森林資源を活用するとともに、カーボンニュートラルにも資する森林循環(伐って、使って、植える)を進めることにより、森林・林業を「核」とした「地方創生」の実現を目指している。 木材を安定的に生産・供給し、林業・木材産業の成長産業化を図るには、搬出コストの低減が必須であり、高性能林業機械の導入や効率的な木材輸送のための、林道を基幹とした路網整備が強く求められている。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区間では、令和5年度までに間伐をはじめとする森林整備が延べ681ha実施されている。また、大比地区飲料水施設の維持管理に関するメンテナンス労力が軽減されている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.78 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 適切な森林施業と管理をおこなう上で重要となる当林道に対する期待は大きく、また、緊急時の迂回路等としての機能を有する側面を兼ね備えるため、海陽町、地元住民、森林所有者等は早期完成を強く望んでいる。																			
	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																			